

小林久左衛門

■主な水利事業

小田井路・鬼ヶ瀬井路



小田井堰



1659年(万治2年)～1722年(享保7年)

年号	元号	年齢	出来事
一六五九年	万治二年	1	黒木助右衛門の長子に生まれ平兵衛と名付けられる 足軽小頭の小林家に養子に入る
一六七四年	延宝二年	16	佐伯城修築に参加
一六八二年	天和二年	24	番頭並河三郎右衛門の配下になる 家督を継ぎ、名を久左衛門と改める
一六九一年	元禄四年	33	小田井路の工事奉行を務め竣工させる 功績から勘定方になる
一六九九年	元禄一二年	41	毛利高慶が六代藩主となる
一七〇六年	宝永三年	48	鬼ヶ瀬井路の工事奉行を務め竣工させる 功績から上士に昇進する
一七〇八年	宝永五年	50	
一七一一一年	正徳元年	53	免職され奉公を禁じられたため、幕府領床木村に立ち退く
一七一八年	享保三年	60	藩に戻ることを許され、勘定頭になる
一七一九年	享保四年	61	勘定方元締と兼務で郡代・町支配になる
一七二一年	享保六年	63	五所大明神社造営の総奉行を務め竣工させる
一七二二年	享保七年	64	会議の席上で急死する

小林久左衛門

久左衛門の 生い立ち

さいきはん くろきすけ えもん
佐伯藩の黒木助右衛門の長男として生まれ、代々足軽小頭あしがるこがしらを努める小林家の養子となりました。幼い頃から優秀で、藩に出仕してからも優れた働きを見せ、家督かどくを継ぐ前に番頭しゅっし(藩のNo.3)並河三郎右衛門なみかわさぶろう えもんの配下になるなど、評価されていました。

久左衛門の 建議

佐伯藩は、幕府から城普請しろづしんなどの負担を強いられていたこともあり、財政が極度に悪化していました。

久左衛門は経済学を身につけると、藩政の立て直しには新田開発しかないと考え、藩内をくまなく調査した結果、いくつかの候補地を見つけ、たびたび藩に提案しましたが、なかなか受け入れられませんでした。

しかし、下野村つるみ(佐伯市鶴望おおしやうや そめや)の大庄屋、染矢治左衛門じざえもんとともに井路の計画を練り、5代藩主毛利高久もうりたかひさに出願したところ、ついに受け入れられ、井路が開削かいさくされることとなりました。

小田井路の 開削

開削に当たって、藩主高久たかひさは足軽だった久左衛門を、工事奉行ぼっに抜擢てきしました。

経済と地理に精通しているとの評判からだと言われています。

小田井路は佐伯藩最初の大規模水路だったため、多くの困難が伴ったようですが、藩の財政状況から失敗は絶対に許されない工事でした。

久左衛門は現場監督として陣頭指揮を取り、元禄4年(1691年)、井路は無事完成しました。



佐伯城の大手門

鬼ヶ瀬井路の開削

6代藩主高慶は中興の祖と呼ばれ、藩政改革を行ったことが知られていますが、その財源確保のため、鬼ヶ瀬井路を開削することになりました。久左衛門は再び工事奉行を命じられ、その手腕を振るうことになりました。

宝永3年(1706年)に始まった工事は、トンネル等の難工事箇所があったにもかかわらず、久左衛門の的確な指示により、順調に工事は進み、わずかな日数で井路は完成しました。

※中興の祖：長期政権の途中で、危機的状況に政権を担当して、政権の安定化や維持に多大な功績があったと歴史的評価を受ける者

久左衛門の功績

2つの井路の完成によって、新たに水田となった230haの農地では、3,600石の米が生産でき、佐伯藩にとっては大きな財源となりました。

この功績により、久左衛門は足軽という低い身分から、藩の会計に携わる勘定方になるという、異例の大出世を遂げました。

佐伯藩

佐伯藩は九州最東端にあった2万石の小藩で、初代藩主毛利高政により藩政の基礎が築かれました。平地が少ないため開墾を奨励する一方で、山焼きは海の鰯がよってこなくなったり水源が涸れたりするため禁止していました。漁業にも力をいれており、「佐伯の殿様浦でもつ」とうたわれました。

藩主である毛利家は、お家断絶の危機を何度も迎えながらも、改易などの処分にあうこともなく、明治維新まで藩主を務めました。



城山からの風景(上岡)

エピソード1

佐伯の殿様浦でもつ

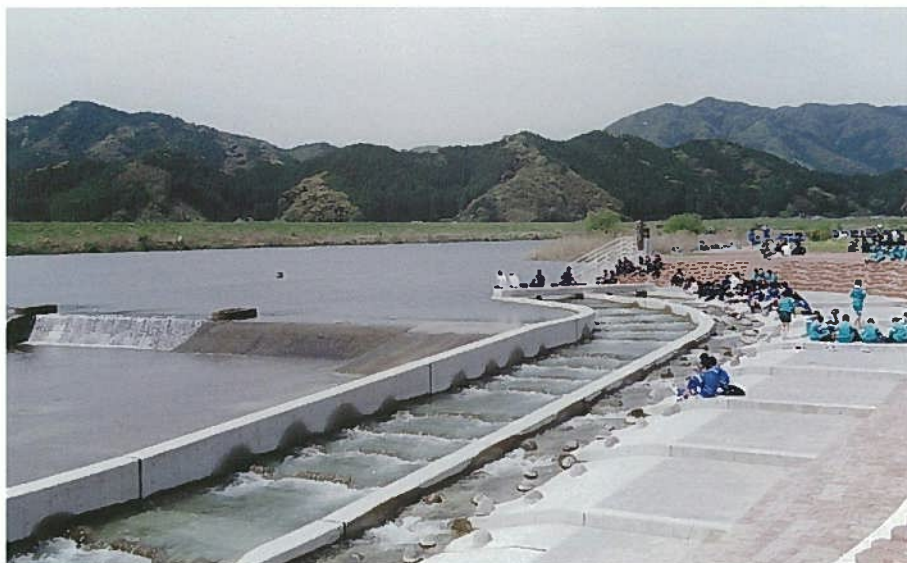
当時盛んだった綿作に欠かせない肥料に干鰯がありますが、「佐伯干鰯」は全国ブランドとして取引されていました。

その売上から、佐伯藩には米に換算して3千石以上の金銭の納付があったと記録されています。

これから誰言うともなく「佐伯の殿様浦でもつ」とうたわれるようになったそうです。

こ だ い ろ 小田井路

元禄4年(1691年) 竣工



こ だ い せき
小田井堰

小田井路は、佐伯領内で最初に作られた大規模水路です。

番匠川から取水するため堰を設置し、取水口から山ぎわに水路を開削して、上岡、古市、下野の3村(佐伯市鶴岡)に水を引き、157.8haに灌漑することができました。

この井路の完成により、水田となった農地には、佐伯藩の石高の1割を超える約2,500石の米の生産量があったことから、藩の経営安定に大きく貢献しました。



番匠地区を流れる小田井路



エピソード2 足軽の工事奉行

足軽は武士階級の下に位置し、非正規職員に似た性格の身分でした。

工事奉行のような大役を任されることは、普通ありえず、久左衛門は失敗したときは死を覚悟していたのではないかと思います。

当初の堰は木製で、洪水に遭うたびに壊れ、修理に膨大な労力がかかりました。そこで文政9年(1826年)に110mにわたる堰を石だたみに改修しました。

その後、堰は明治23年と昭和39年に、水路は昭和28~32年に大きな改修を行いました。中でも昭和39年の改修では、前年8月の台風災害により、堰が50mにわたり決壊流失したため、多額の費用をかけて再建しています。

度重なる改修を行いましたが、小田井路は建設当時とほとんど変わらない場所にあり、現役の水路として利用されています。



昭和29年の水路改修(コンクリート張り)



鬼ヶ瀬井路

宝永3年(1706年)竣工



おにがせいせき
鬼ヶ瀬井堰

鬼ヶ瀬井路は、6代藩主高慶の命により久左衛門が手がけた水路です。

この井路も番匠川に堰を設置して取水し、山に沿って水路を開削しました。

鬼ヶ瀬井路は佐伯市弥生^{やま}の山梨子^{なし}、上小倉^{かみおぐら}、井崎^{いさき}の3地区、70haに灌漑しています。

宝永3年(1706年)の井路の完成により、3地区で約1,100石の米の生産量があったようです。

中でも井崎地区は米がとれない村として幕府に報告されていましたが、井路により、米がとれるようになりました。



鬼ヶ瀬井路の受益地(山梨子地区)



EPISODE3 エピソード3

藩主高慶の選択と集中

鬼ヶ瀬井路を開削するにあたり、高慶は藩内のすべての夫役(労働課役)を中止して、井路開削に集中したと伝わっています。

4月30日に井堰ができあがったと高慶の日誌にあることから、3~4ヶ月で井路が完成したのではないかと思います。



山梨子地区の鬼ヶ瀬井路

鬼ヶ瀬井路の最初の大改修は昭和12～16年の水路改修で、さらに昭和42～47年に取水口と水路を改修しています。

また平成21年から水路を中心に改修を実施中です。

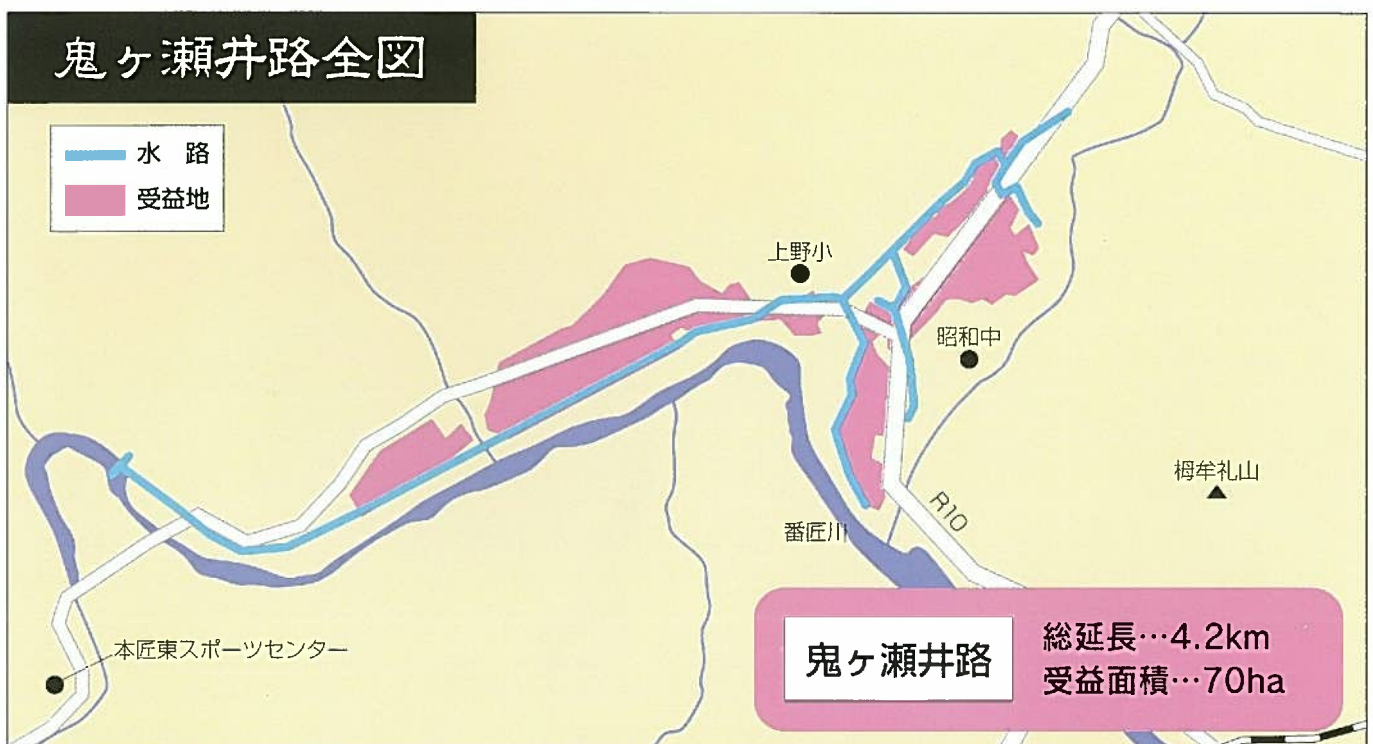
鬼ヶ瀬井路は現役の水路として、建設当時と変わらない場所で、今でも地区の水田を潤しています。

エピソード4 宝永の大地震

鬼ヶ瀬井路竣工の翌年、宝永4年(1707年)10月4日に大地震が発生し、佐伯藩でも家屋や田畑、堤防などに甚大な被害が出ました。

ただし鬼ヶ瀬井路が完成していたことから、なんとか藩の財政は持ち堪えることができたようです。

鬼ヶ瀬井路全図



その後の久左衛門

久左衛門の失脚

足軽から勘定方にまで出世した久左衛門でしたが、正徳元年(1711年)、藩主高慶から「藩の財政が苦しいからといって、家臣や百姓が納得しないような節約をしては、多額の工面ができて、大本の藩の評価に影響しかねず、不届きである」と職務に対する方針についてとがめられ、久左衛門とともに2人の息子も浪人となり、佐伯藩から追放されました。

久左衛門の復帰

追放された久左衛門は、独自に若干の新田開発などをしながら過ごしていましたが、享保3年(1718年)無実の罪であったことがわかり、許されて藩へと戻り、高慶から勘定頭を命じられました。
久左衛門60歳のことでした。

久左衛門の最後

復帰後の久左衛門は昇進を続け、番頭(藩のNo.3)役を勤めましたが、享保7年(1722年)4月19日、会議中に突然倒れ、そのまま64年の波乱な生涯を閉じました。

久左衛門の死後も、2つの井路は藩の財政を支え続け、度重なる天災や藩財政のひっ迫にもかかわらず、佐伯藩を明治維新まで存続させました。

その徳をしのび、今でも久左衛門の廟が西運寺で大切にされています。

「赤堂さん」

佐伯市弥生の西運寺には、上野村の農民たちが建てた、地元で「赤堂さん」と呼ばれる久左衛門の廟があり、久左衛門の守り本尊である不動明王の像が安置されています。この廟は鬼ヶ瀬井堰の方向を向き、山梨子地区の水田を見守っています。



- ◆参考文献：佐伯先哲小伝、佐伯藩資料温故知新録 佐伯郷土史、シリーズ藩物語・佐伯藩 他
- ◆協力：西運寺、小田井堰土地改良区 弥生土地改良区
- ◆写真協力：HP「パノラマ風景写真で観光する大分県」 <http://panorama.photo-web.cc/>
- ◆作成：大分県農林水産部農村整備計画課
- ◆印刷：大野印刷株式会社